

岐阜県教育委員会

岐阜県立八百津高等学校
校長 亀谷信幸

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立八百津高等学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和2年2月20日（木）15:30～17:00
- 3 開催場所 八百津町ファミリーセンター 講義室
- 4 参加者
委員
安藤 充優 八百津中学校長 (会長)
愛知 美吉 錦津コミュニティーセンター館長 (副会長)
佐藤 亜紀 八百津東部中学校長
西山 史子 八百津町教育相談アドバイザー
林 善次 八百津高等学校同窓会長
藤本 敏茂 八百津高等学校PTA会長
オブザーバー
金子 政則 八百津町長
佐合 重光 八百津町商工会長
学校側
亀谷 信幸 校長
今井 直弘 教頭
増井 克安 生徒指導主事
志比 顕秀 進路指導主事
貝川 友子 記録

5 会議の概要（協議事項）

- (1) 「八百津高校についてのアンケート」結果について
 - ① 八百津高校生及び保護者、地元中学2年生、地元中学校教師、地元中学校保護者体験入学参加中学生、地元小学校保護者、地域住民からの結果についての報告
 - ② アンケート結果分析について
- (2) 令和元年度自己評価・学校関係者評価 報告
 - ①教育課程・学習分野 ②生徒指導 ③進路指導 ④連携型中高一貫教育
 - ⑤デュアルシステム
- (3) 来年度の学校運営について

以上（1）～（3）について学校側から委員に説明

6 会議のまとめ

委員からの意見

(1) 令和元年度自己評価・学校関係者評価 報告について

○登校時、生徒はしっかりと挨拶をしてくれている。生徒指導分野での自己評価が低い、学校では何が欠けているとの認識なのか。

(回答) 主に基本的な生活習慣と、マナーの遵守やモラルの徹底など自己を律する姿勢に課題があると考えます。

(2) 来年度の学校運営について

○八百津高校は、ポート、カヌー、中高一貫、ふるさと教育、そしてデュアルシステムと、注目を集めている学校である。年度ごとに様々な要因で入学希望者数の変化はあるが、気にすることなく、今のまま頑張ってもらいたい。生徒は、様々なことを吸収し日々成長していくので、いろいろな場面で丁寧に指導してもらいたい。

○自分の若いころは、叱られて教育されたが、今の時代は、まず褒めて、叱るのは最後だと言われている。職場でも、従業員を叱ることは少なくなり、まず何か一つ褒めてから、指導するようにしている。先生も生徒の長所を見つけ、伸びしろがあることを念頭に置いて、褒めて育てる教育をお願いしたい。

(3) その他

○デュアルシステム結果発表会を見学して

- ・発表内容が昨年よりもレベルアップしていることを感じた。先生の指導の賜物である。目的がコミュニケーション能力の向上だけでなく、将来の仕事を考えての発表もあった。発表者が聴衆に向かって精一杯話す姿に感動した。
- ・時間的な関係もあるが、発表の最後に各企業から生徒に対してコメントをいただけるとよかったと思う。
- ・企業は、ボランティアで未来を担う生徒を育て、実習日には実習日誌にコメントまでも書いてくれている。この取組は社会を生き抜くための生徒の力になり、ありがたいと感じた。
- ・中学校でも秋に二日間、同じような職場体験を行った。そこで、挨拶の大切さや礼儀・マナーを学んできた。今日、聞かせてもらった高校生の発表の中にも同じ学びがあった。発表を聞いた中学生は、自身の経験から得た学びは本当だと確信したと思う。とてもよい時間だった。今日のことは、いろいろな機会に広めていきたい。
- ・以前仕事上で関わった生徒が、堂々と発表している姿を見て、温かく見守ってくれる地域の方々の細かいサポートにより、成長した姿を見て涙が出た。
- ・感激したことは、「自分で考えて行動できるようになったこと」であり、これは高校生が一番苦手なことである。それを2年生で気づき、できるようになったということはまさに宝物である。自分の言葉で話せたことは、自己肯定感につながり、1年間の成長が分かる発表であった。企業側の協力と先生の賜物である。